

東海道五十七次(京街道)
— 守口驛 —
守口宿
間宿・佐太
(あいのしゆく・さた)
歴史文化マップ



守口門真歴史街道推進協議会

守口宿 東海道57次守口宿 (江戸・品川宿・大坂・守口宿)
◆街道は国の品格、宿駅は街の誇り ◆400年の歴史を今に・・・

守口のあゆみ

昔は、守口地方も大阪湾の海の中で、長い歳月を経て、淀川や大和川の地盤により大阪湾が埋まり湖になりました。やがて陸地化して、3000年ほど前頃から守口辺りでも人々が住むようになったと思われています。

八雲には縄文時代の終わり頃の「八雲遺跡」があり、弥生時代になると「長地遺跡」などたくさん遺跡が発掘されています。

奈良時代には、都が奈良に移り、守口地域でも、「長柄船瀬」や行基によって「高瀬橋寺」や奈良街道のもとになった「唐道」などが開かれ、遣唐使たちも高瀬船瀬より船出したと思われています。

都が京都に移り、平安時代になると皇族関係の荘園となっていました。また、太宰府と京都を結ぶ山陽道が重要幹線となり、その後、鎌倉時代、室町時代、戦国時代にはいろいろと戦いがありました。

守口は雑宗寺を中心とした寺内町として発展しましたが、石山合戦などでは守口の地域も戦いの影響を大きく受けました。

豊臣秀吉が大坂城を築き、伏見にも築城すると文禄慶長が築かれ、そこに京街道が整備されましたが、豊臣氏滅亡後は、東海道とそじられた。

守口宿の起こり

豊臣秀吉が守口の本陣で、守口大根漬を食したとあります。すでにこの頃には本陣などがあり、宿場らしきものは存在していたと思えます。

東海道は徳川家康が重要幹線道路と位置付け、慶長6年(1601)より整備が始まり、守口宿が京街道から東海道になったのは、明確ではありませんが、元和元年(1615)の大坂の陣で豊臣氏が滅ぶと、伊勢亀山城主松平忠明が大坂城によびよせ、荒廃した大坂の復興と、西国(大名)支配の重要拠点と考へ、元和2年(1616)に京街道の伏見・淀・枚方・守口を宿駅として東海道に加入しました。

守口は、枚方から3里、大坂へは2里の位置にあり、馬継のない人定宿として、東海道57番目の宿駅で守口町だけで形成されていました。



◆守口宿は時代とともに隆盛の歩みを (江戸幕末から明治・大正・昭和・平成・令和へ)

守口が一夜の首都に (幻の大坂遷都にまつわる守口宿(明治天皇一行御宿泊の歴史))



守口宿の原画

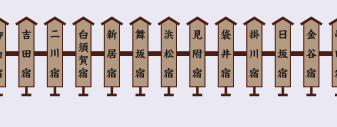
文化年間(1801~1817)の守口宿原(国立博物館所蔵)



守口宿の本陣

本陣は、大名や幕府の役人、公家、勤王などが宿泊する宿です。

守口宿は大坂に近い1軒だけで、吉田八兵衛さんが経営されていた1軒だけです。敷地300坪で御門や上段の間があり、一般の旅籠とは異なっていました。



間宿・佐太 京・大坂の淀川三十石船と京街道(東海道)の往来で栄えた間宿・佐太 (あいのしゆく・さた)
◆枚方宿と守口宿の間の休憩地 摂津国と河内国の淀川兩岸の往来と旅人を癒す佐太詣と物流の拠点!

◆枚方宿と守口宿の間の休憩地 摂津国と河内国の淀川兩岸の往来と旅人を癒す佐太詣と物流の拠点!

佐太は学問の神様で知られる菅原道真公ゆかりの地で、天保年間(1830~1837)に頼(ほこら)が建てられたのが佐太天神宮の創建と伝えられています。

江戸時代には、枚方宿と守口宿の間の休憩所としての「間宿・佐太(あいのしゆく・さた)」が幕府に認められ、宿泊は禁じられていましたが旅人の憩いの地として賑わいました。

佐太天神宮前の佐太港(舟着場)は淀川三十石船の東寄や大坂の人々の佐太詣(さたまち)でも利用され、上り下りの三十石船の乗客は、船上で手を合わせ佐太天神宮にお参りしました。

間宿佐太は石清水八幡宮ともゆかりが深く、来迎寺、管相寺、段蔵など歴史的景観が多く点在しています。

石造り竹藪に往時の面影を残す譜代大名永井氏の「佐太陣屋」は、加納藩の大坂蔵屋敷と台所の役割を担い、年貢米の納入、特産物の集積、大坂商人への売りさばき、金銀や物資の調運などが行われ、往時の賑わいが感じられます。



史跡めぐりコース(佐太・大日コース)(約5.9km)



佐太天神宮

菅原道真が大宰府に流される際、しばらく船をつないだ地に、後年になって祠を建てたのが始まりとされています。

近世の神社の様子がよく残されているとして、平成15年(2003)、大阪府指定文化財に指定されました。

また境内の森は「大坂みどりの百選」に選ばれています。

間宿・佐太の「佐太天神宮」は、佐太詣の舟運客で大いに賑わっていました。

江戸時代、夜に伏見を出て朝に大坂に着く舟旅の途中、船頭に頼みかけられた「淀川三十石船舟頭」は、大坂府の無形民俗文化財に指定されています。

「あかーい」舟が出る「あかーい」のイト口で始まる。この頃の「佐太詣の懸入見」が当時の船旅、佐太詣の情緒を蘇らせる画として佐太の人々に愛されています。

- ・ヤレサ枚方下ればイナ 波屋が通った佐太天神だ
- ・ヤレサ財成し、詣てよ 宴するエ ヤレサ ヨイヨイヨ
- ・ヤレサ守口宿はイナ 東海道の1の宿場エ
- ・ヤレサ様堤はイナ 今もにぎわうエ ヤレサ ヨイヨイヨ

東海道57次宿駅

